



学校教育目標「豊かな心と 確かな学力 つながりあう学校」

NO.19

# 庄内西小学校だより

令和3年(2021年)12月7日発行

校長 西口肇子



カラー版は『<http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/shonai-n/>』をご覧ください。

## 戦争の悲惨さ 平和の大切さ 命の尊さを学ぶ

76年前の8月6日、8時15分、ヒロシマに原子爆弾が落とされました。この原爆の炸裂で「熱線」が発生し、爆心地の地表温度は鉄も溶かす3000℃以上に達しました。そして、秒速440m以上の「爆風」が発生し、その後、地上では大火災となりました。

体が全て燃え尽き、影だけしか残らなかった人  
建物の下敷きになり、生きながら焼かれていった人  
焼けただれた皮膚をぶら下げて幽霊のようにさまよう人  
体中にガラスの破片がささり、血まみれで歩いている人  
ヒロシマのまちは死体であふれ、防火水槽や川は、血で赤く  
そまったといいます。生き残った人も、放射能によって次々  
亡くなり、1945年末までの、原爆による死者は、14万人以上と  
言われています。



二度とこのような悲惨な光景が繰り返されないように、恒久平和の実現をめざす都市であることを世界中に発信するため、広島は『ヒロシマ』とあらわされるのです。

1学期から平和学習に取り組んできた6年生。調べたことを模造紙にまとめ発表したり各クラスで絵本の読み聞かせをしたりしました。

平和の資料展(ランチルームにて)



そして、1学期の終業式には、『行ってきます集会』を行い、ヒロシマへ修学旅行に行く目的や意義について、全校児童に力強く伝えました。



## ヒロシマへ修学旅行に行ってきました(11/23~11/24)



平和記念公園では、まず、原爆ドームを見た後、『原爆の子の像』の前でセレモニーを行いました。実行委員の進行で黙祷のあと、『ヒロシマの有る国で』を合唱し、全校児童で折った折り鶴を捧げました。ヒロシマの空に、思いのこもった歌声が響きました。



### 『ヒロシマの有る国で』

作詞 作曲 山本さとし

1 八月の青空に今もこだまするのは  
若き詩人の叫び 遠き被爆者の声  
あなたに感じますか 手のひらの温もりが  
人の悔し涙が 生き続ける苦しみが  
私の国と彼(か)の国の 人の生命(いのち)は同じ  
このあおい大地の上に 同じ生(せい)を得たのに

ヒロシマの有る国で しなければならぬことは  
ともる戦(いくさ)の火種を 消すことだろう

2 かの南の国では 大国がのしかかり  
寡黙な少年らが 重い銃に身を焼く  
やせた母の胸に 乳飲み子が泣き叫び  
裸足で裸のまま 逃げ惑う子どもたち  
故国の土をふむことも 家族と暮らすことも  
許されない戦争が なぜに今も起る

ヒロシマの有る国で しなければならぬことは  
ともる戦(いくさ)の火種を 消すことだろう

私の国と彼の国の 人の生命は同じ  
このあおい大地のうえに 同じ生を得たのに  
ヒロシマの有る国で しなければならぬことは  
ともる戦(いくさ)の火種を 消すことだろう



その後は、班ごとに碑めぐりをし、広島平和記念資料館を見学しました。気づいたことやわかったことは、写真と一緒に、たくさんタブレットに記録していました。

宿舎についてからは、原爆被害についての聞き取り学習です。みんな、真剣に聞いていました。



ヒロシマでの体験は、原爆や戦争の被害を知り、平和や生命について深く考える機会になったと思います。学んだことは、2学期終業式の後「報告集会」で発表します。